

弥生の墓

2025.
1 / 18 土
3 / 16 日

— 玉津田中遺跡の方形周溝墓 —

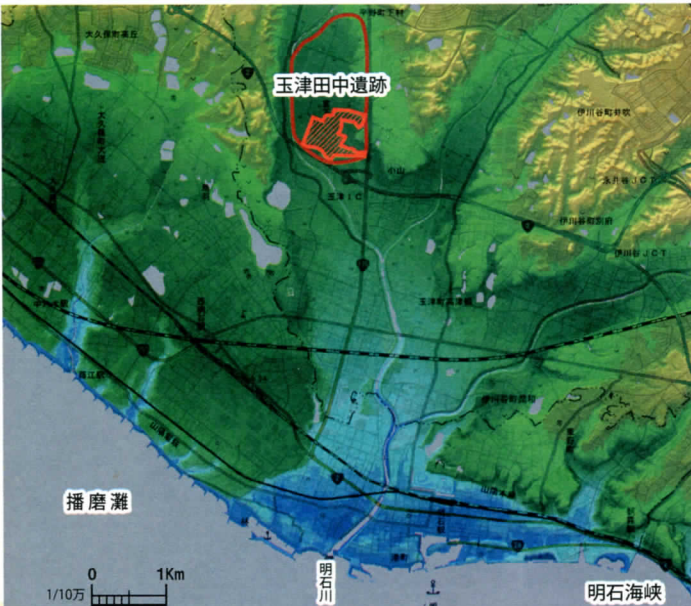
1 弥生時代の墓

弥生時代は水稻農耕社会が定着、発展し、前方後円墳が成立するまでの時代です。墓地や集落は社会の姿を反映し、地域や時期によって異なります。近畿地方の弥生時代中期（約2,300年前～約2,000年前）の墓は周囲を四角く囲む区画溝を掘り、墳丘を設け、木棺を埋葬する方形周溝墓①が一般的です。

本展覧会では玉津田中遺跡（神戸市西区）の弥生時代中期（約2,200年前）の方形周溝墓などの墓を取り上げ、埋葬方法から当時の社会を考えます。



① 方形周溝墓群



② 玉津田中遺跡の位置

国土地理院 加筆

2 玉津田中遺跡

玉津田中遺跡は神戸市西区宮下に所在し、明石川中流域の沖積地に立地しています②。区画整理事業の道路部分を網の目状に発掘調査したため、遺跡の広がりや内容が確認できました。また、度重なる洪水を受けており、縄文時代から室町時代の遺構面を層位的に捉えることができました。

とりわけ、弥生時代中期中葉は安定した生活の後に洪水砂礫に覆われたため、墓域・居住域・生産域といった生活の主要な要素の地区分けが良好に残っており②、弥生時代のムラの様子が復元できました③。



③ 弥生時代中期の玉津田中ムラの復元（淡路島を望む）

3 玉津田中遺跡の方形周溝墓

玉津田中遺跡の方形周溝墓は造られ始めた当初、居住域にも点在していましたが、やがて居住域北側に位置する最大の方形周溝墓SX40010を核とし、溝を共有して墓域を形成していきます①・④。調査した範囲で総数40基を確認しました。周溝内からは掘削に使われた鋤や、溝の底に刺さって折れた鋤の先端が見つかります⑤・⑥。

棺は主にコウヤマキで作られています。新しくなるとヒノキやカヤ・クスノキ・モミなども使われています⑧。周溝内からは貯蔵された棺材⑦や端材、削屑が見つかります。棺の横に墓標が建てられていたもの⑨もあります。

埋葬方法は、組合せ式木棺⑩・⑪で、人骨から成人や幼児など体形に合わせた棺⑫・⑬を作っていることがわかります。周溝内からも箱形の組合せ式木棺や木蓋土壌⑭が見つかります。居住域からは土壌墓や乳胎児を葬ったと考えられている土器棺墓⑰・⑱が見つかります。

碧玉製管玉⑳などの着装品や打製石鏃㉑、銅剣の切先⑫・⑬などの武器類が出土している棺もあり、埋葬場所や棺構造なども合わせて、被葬者の性格や当時の社会を反映していると考えられます。



⑤ 周溝から出土した鋤



⑦ 周溝に貯蔵していた棺材 (クスノキ)



⑥ 周溝の底に刺さって折れた鋤の先端



⑧ コウヤマキ (蓋板・底板・西側板)・クスノキ (両小口)・モミ (東側板) を組合せた木棺



⑨ 墓標が立つ方形周溝墓



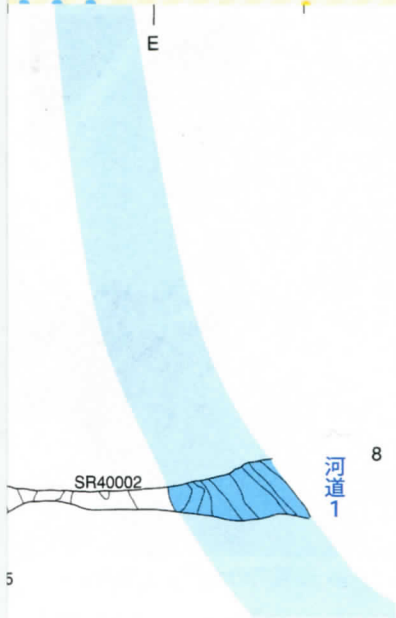
⑩ 2基の木棺が並んだ方形周溝墓



⑪ 組合せ状況がよくわかる木棺 (頭部に朱の痕跡が残る)



④ 方形周溝墓群と棺の種類



⑫ 成人木棺の横に葬られた幼児木棺



⑬ 乳歯・永久歯が残る人骨木棺



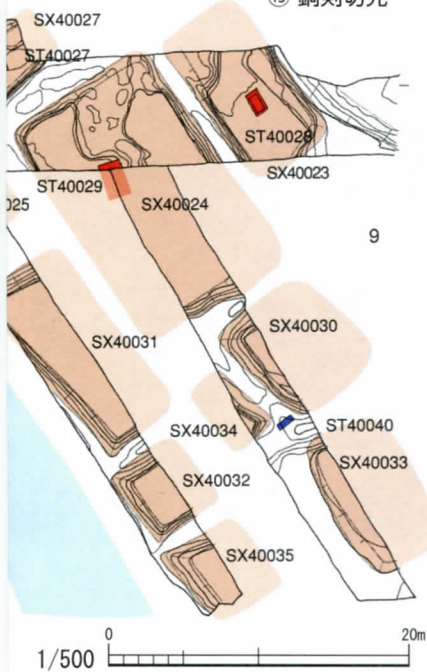
⑮ 銅剣切先



⑭ 銅剣切先が腰部に残る木棺人骨



⑯ 木蓋土壙



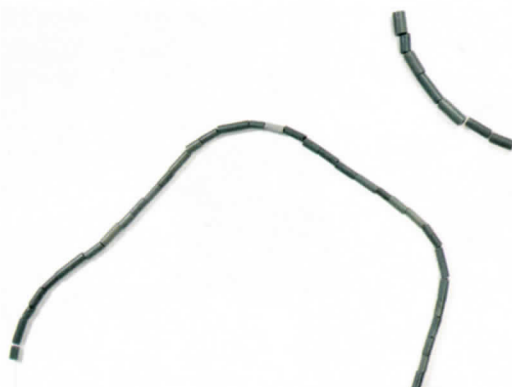
⑰ 土器棺墓群



⑱ 土器棺墓
(棺：甕・蓋：脚部を打ち欠いた高坏)



⑲ 棺内出土のサヌカイト製石鏃



⑳ 棺内出土の碧玉製管玉



㉑ 土壙出土のサメ椎骨を加工した玉



4 埋葬にかかわる儀礼

方形周溝墓の溝などからたくさんの土器が出土しました②③。これらの土器は日常生活で使用される土器とほとんど変わりませんが、本来貯蔵に使用される壺が火を受けてススが付着しているものや、穿孔したり打ち欠いて本来の機能を無くしているものが多数あります②④・②⑤・②⑥。これらの土器に残る痕跡は、埋葬する際の飲食物共食に伴う儀礼だと考えられています。

また、方形周溝墓群と居住域の間に洪水砂で埋もれた平地建物が見つかり、床面からは完全な形をした土器や一部を打ち欠いた土器が30個体以上出土しました②⑦。完形の土器は体部に穿孔があります②⑧。この平地建物は床面に木棺材に使用されているモミの板材を敷いていること、穿孔や打ち欠きのある土器が出土していること、碧玉製管玉や石鏃が出土していること、などから方形周溝墓と関連性があり、床面に火を焚いた痕跡があることから飲食物共食に伴う儀礼の場所である可能性が高い施設と考えられます。



②⑤ 周溝墓から出土した土器



②⑥ 周溝に置かれた木製器台上載った壺
(神戸市蔵・神戸市文化財課写真提供)



②⑧ 平地建物から出土した土器



②⑦ 平地建物の遺物出土状況